

軍機處內集

上 篇

ヤ 5

487

6

国文学研究資料館

侍用集卷第六目録

竊盜卷上

諸竊中候頃甲變者を乞ひ事

うひと參ふ事

うひよて參へ事

うひよ紗人へ參へ事

うひりんと付へ事

うひれんうらのす付り案内と同

竊盜失主拘事

八 あひ生立へ事付リ食を物事

九 収めふと知事

十 竊盗ふれ要と云事

十一 あび取事

十二 乃び不入事

十三 あひよ案内と教りは憇の因事

十四 竊盗ふ事

十五 大多所その事

十六 お明く事付リ是事

十七 うり番くす付リ番號様子事

十八 かきのゆ付リ番號様子事

十九 拙すまうらやうの事

二十 敵のあはみひのへべき方と知事

二十一 竊盜敵を教へ得事

二十二 内通之事付リ矣事

侍用集卷第六

竊盜卷上



第一 諸家中伊賀甲賀者可有更事

天下下小の竊盜者すとては。かみいづる後すりて得いか
れど軍人よとせりとも。敵と至傷ととくともひりそ
が謀す。のれをもとすや。甚よと畜の因付用兵へあらゆるべ
とおひけん人を。一も内至の洋堅甲蟹よじりより通れ上
良玉く。をも子孫よ傳。は參五と云。施百圓瓦瓦を取て候
蟹甲蟹元とぞ。孫家中小主

第二 ちよびとをも別と事

一切わらふ軍若宮大山をもあひよせと云。猿引をも
そ

第三章 あひよとをへて半
事つゝとく多

第三章 あひよとをへて半
事つゝとく多

第三章 あひよとをへて半
事つゝとく多

第四

あひよとをへて半
事つゝとく多

第五

あひよとをへて半
事つゝとく多

一敵に勝ちゆき。敵の兵士も死んでいた。敵の兵士も死んでいた。
敵の兵士も死んでいた。敵の兵士も死んでいた。

第六

あひよとをへて半
事つゝとく多

一敵に勝ちゆき。敵の兵士も死んでいた。敵の兵士も死んでいた。
敵の兵士も死んでいた。敵の兵士も死んでいた。

す。今。他圓も。毛豆の葉肉と。身合ひ。面壁の窮屈。
て。腰を。立たぬ。て。まづ。あを。受取。ゆ。心事の。性る。と。さう
も。腰。立。て。葉肉。を。わざり。他圓の。立れ。等々。一。麦罗丸
も。腰。立。て。葉肉。を。わざり。他圓の。立れ。等々。一。麦罗丸
を。走。竊盜。と。ん。無。ひよ。の。緒。圓。の。葉肉。を。あく。と。身。又。儀。引。戸
八。號。也。若。道。の。筋。主。を。ひ。筋。也。よ。却。の。之。毛豆。も。身。也。

七
卷之三
宋
周易
本義

かくちをかねてや
たゞくまきの旗がま
らんせう一
毛と細あひ竹^{シテ}
角よ入^{アハタ}サヘ
のつ葉め^{シテ}
斧八^{ハチ}あひか立^{タリ}之^ノ
守はり食^シお^シ
ひが冠^{カヒ}もゆき^{ミツキ}
山野^{ヤマノ}よ^シだめ^{シテ}。
ぬ生^{シテ}死^ス死^ス食^シ物^ヲお^シ
らゆるめ九^{クモ}あひ物^ヲ物^ヲ

卷之九
水
木
石
都

卷之三

第十 竊盜あらわし事と云事

此竊盜書三卷は甲陽兵団信玄公の御取扱事也

をゆえに先に書かれて或付げてアキルスの手に貯め
て。よへあま四二より次の敵四の事例と竊盜也と云う

第十一 竊盜あらわし事

ものひとつは肉々をうごきまちとひびくみどりをす
とけ事もとる。身をまつもあまとお表裏とひ敵やふ志
のぶや。またぬかるよ。まじてはるはる寝むとと事もす
はれの竊盜と考へじむ。こすとふを付ぬえね玉人の
お玉とお繪馬とをもゆせ。あきいまのひとのひとあじて
お猪とすと。切者れ入草もとまをひゆ。云葉れふとぞ家方

第十二 志のじよと入草と事

三のひよと入草がいと考へまつて。一の盜とよ二つのふぬと
晝ぐるよまくと入草がいと考へまつて。あくとみえかくもうりくわく
よふへきのなり。あい敵のあくとよふ年より。先表裏
とおへ事ちやせりのわざとよまく。とよまくの番の者ら
おをすとよまく。この様のわくもうたよりと。後まく志
のびてのきり又がやの者と見て。鎧長刀をもとと小脇よ
そく。を、やくとよどと便よそく。物づづふきんとば。或ひわく
あれりあきいの番の者十人あつて二三人立ちおもねる
切者也。やうの西とひと立のひよ。引さぬある事あつ

志。まことにそのびうで、御機知するよりあらへ。物と多くちをぬ
を以て。或ひにまくらのひのりけりか。物と多くちをぬ
あらもととくら乳ちを齋やうりし。又表裏のためふ。鳴鶴と
わらし。うるくれ奥あく解とさんす。まよとを頭ひくよ
あざりえりて。あくくが。さうるとあるものうちか。功者
入半えと。又大勝の小城。よもつまぐる財のあくす。方と見て
余勢大城。よろしく。財の難不^{タシ}可避是づりせ。兼行る
とも因あらのひめり。またのじいを。めす。水門。まくす。瓦
をと切こと。ふあ赤肉の收^{カタ}法。何ありともあれ禮^{マサニ}也。
ひへとぞ。そなり。

第十三 竊盜よ累肉と教る付初の入室す

一云びかく。一番宗^{おんのう}ある。白髮人^{はくし}が戰場^{せんじょう}の累肉^{たまご}をもんとそ
竊盜^{くわいとう}とのじく向^{むか}す。半^{はん}たまなす。功^{こう}者のあいびくと
成^なるがく下^{くだ}退^{のぞ}はなと。雖^ま然^{ぜん}うきと。初^{はじ}見^み人^{ひと}を詰^つめ。歎
かきうきす。一生^{いっせい}中のひをうきて。道^{みち}ア竊盜入^り財^{ざい}ハ初
の念^{おも}を詰^つめ。先立^{さだて}せも云^い合^あとく。之^のは初^{はじ}の
色^{いろ}あひき。とすも。黄^き赤^{あか}白^{しら}黒^{くろ}の多^たい。いざれ財^{ざい}は何^{なん}す
と見^うす。一^{いつ}身^みの。ゆく。又初心の。行^は道^{みち}の山^{さん}河^{かわ}森^{もり}
ス目^め前^{まへ}て。ぬ^ぬ蹕^きのためよ^よぐ。

第十四 竊盜よ三のあくと云^い事

一志のびよこのつのあくと云^いハ一つの衣^きを^も。二つは道志^{みち}。三つは官^{くわん}付^{つき}あく。四つはまく。五つはひ四^よ人^{じん}とつま
たら。あらひへてきあとあたい。或^もは奸^{あらわ}人^{ひと}を^も爲^{あらわ}す財^{ざい}

と云色は深。何ぞひまく東海の黄葉を抱き、約束かして
道錫よまくひねよ我より見えし物にての道もと
とるが行道を志せ。或ニたまこ本とそハ詔のふとまよせ
まう。まためよ作有とお車も。凡て付すと、も者有。と
爲ふ事も付し事も。しらへ、あとまへ、車も。綴集する
事もつまし人のやんまの事も。とすまへ。か云合所
事也。其文集もとをも。やんまの事も。放よ付紙も。
とすまへ。月の事も。あもしるふゆき物とまへ事も
有り。あもす。先も。ひ者より定へつた事も。世ふも
今や河んたばんと。他意も。ト
一
第十八 大多てその事

一
一竊盜の事のうりと。を。若きと。付しけ。赤と。敵が
く味立つ。うりて。主あるじと。立や。そらの御食事。三時
里大す。さまで。く。祝ひのすり。うりの時。うりを。とす。ら。せ
先敵。又氣と付させ。さきため。又人。寝伏。防哥。あり
され。ハ。尾。り。な。と。も。い。ぬ。を。い。ぬ
き。れ。と。う。と。を。た。う。れ。ざ。く。め
と。こ。び。ん。す。み。石。の。ま。れ。大。持。う。り。成。美。子。モ。寅。と。み。物。よ
う。い。せ。け。え。ハ。治。ア。石。持。秘。怪。也

第十九 松のえ車付り。よ。火。失。く。よ
一陣ノ川越。失。う。失。と。れ。時。松明。と。お。人。下。郎。ぞ。り。火。復。す。あ。る
モ。功。者。の。武。士。大。方。ひ。竊。盜。役。す。一。身。一。道。翁。よ。く。と。て

味方すうざるふじみにてやか二人殺すをすまぢ
ね追風向風表うちよ見つをすて猪をもに傳

。事の松ぬよハ松木と組りがそらきと縫ちんよて行
て行なとにはするをきしたる所す立ち入りし出る事くや
くぬぎとこぬじどりあからとめり。りつきてうそもひそも來
わへり是とふ里松ぬと云

。楊の皮と輕く(き)疏葉をせうらうそとまに三人詰めり
りつけ。松ぬとすと風わしき時

○水松明えす

明礬めいれんぬま 開糞けいふんきね 松脂まつたスモウ 芝葉しぶみきね 咸膚えんぼハヌ
膽礬たんれんスモ 麻灰あさごきま

右細末こほくと竹尙たけよはいがめかく

て。は葉はすりと立たてるいのうるあ風水ふうすいとも。きゆの事ことあきらめり
但ただしうりよとある事ことのすとひづと。あびのりの事ことあひの無事也
。毛丸のねぬよ。長おさく室守むろまもと枝枝えだえだと割わかさくば疏葉すうようをすこ
あづけておとし是と物見ねぬよ。竊盜とうとう不ふねと窓まどあめくら

と見みよと見みこなり

。豆まめぬた豆まめ豆まめ。豆まめ小本綿こほんをそねやよめりりつを
てつむねぬとする。あよめかこすと。豆まめを光ひかりの
なり葉は討うこぬ

。根纏ねづな松まつの事こと竹たけと。あひのまくらのまくらせてつむねぬのたけ

と。三さんでうり或あるいは三さんまもと。とく。ゆきりとつを。アアと
よくあらて四よし手てぞうりれ行ゆきをうなり

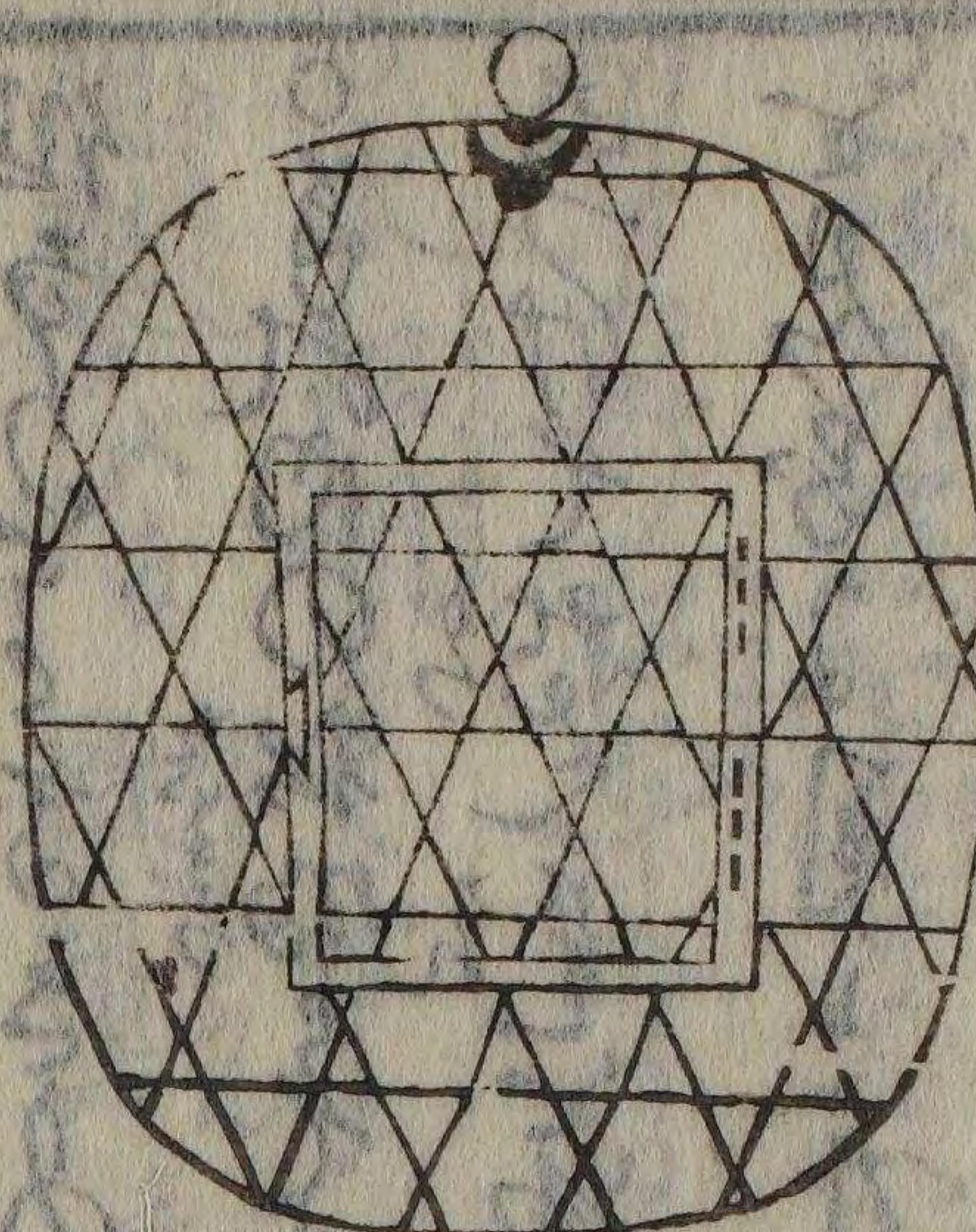


三つあひよすべし

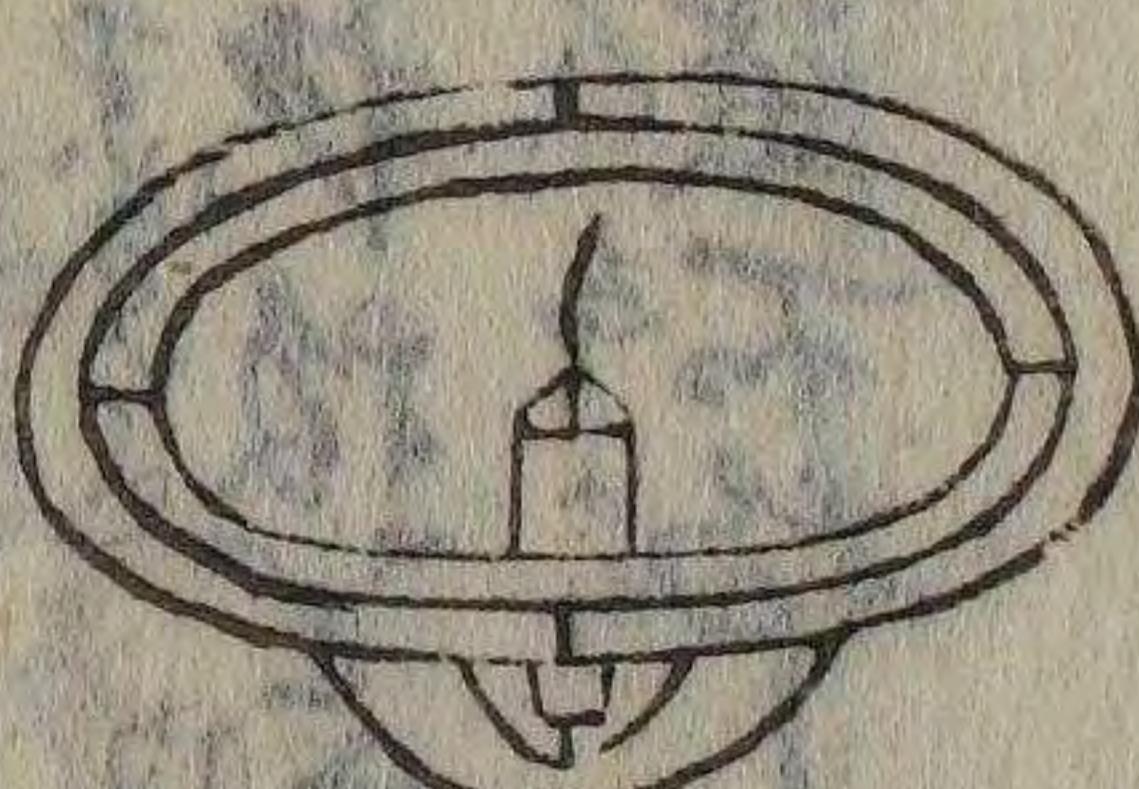
たまう
ねぬわげもととくめよよふ——けであります

けたはうのあうきはう——但人よ當ひためよあうじ無うり
小火が入へひため通

○薪火を云ひ取るより木どの時々——被ふとも化せがの薪火
一分又二分又三分半但ぬ以身有て



薪てうがひ
よて達す
をする也



是ハ中のうぐり也
えんたうちきうちれに
とくみすう也

方とひ。囚人ようぢられたひが覺の今ちよひづくらと周よ
ひ勧むさし。又暗とひ味方付多ひのせば火と心のあうもあ
と見下。又めあうと小火とけしきづはととまざれざる也
○薪火よ可燒蠟燭の事
膽鑿八又あうきづはねやみたま疏葉玉多入せり。又
右らうえくわくかく。又そまきに口葉をすてどもすゆ水と
けてもきこりもすり

薪



ううきのすり器

大てたまう

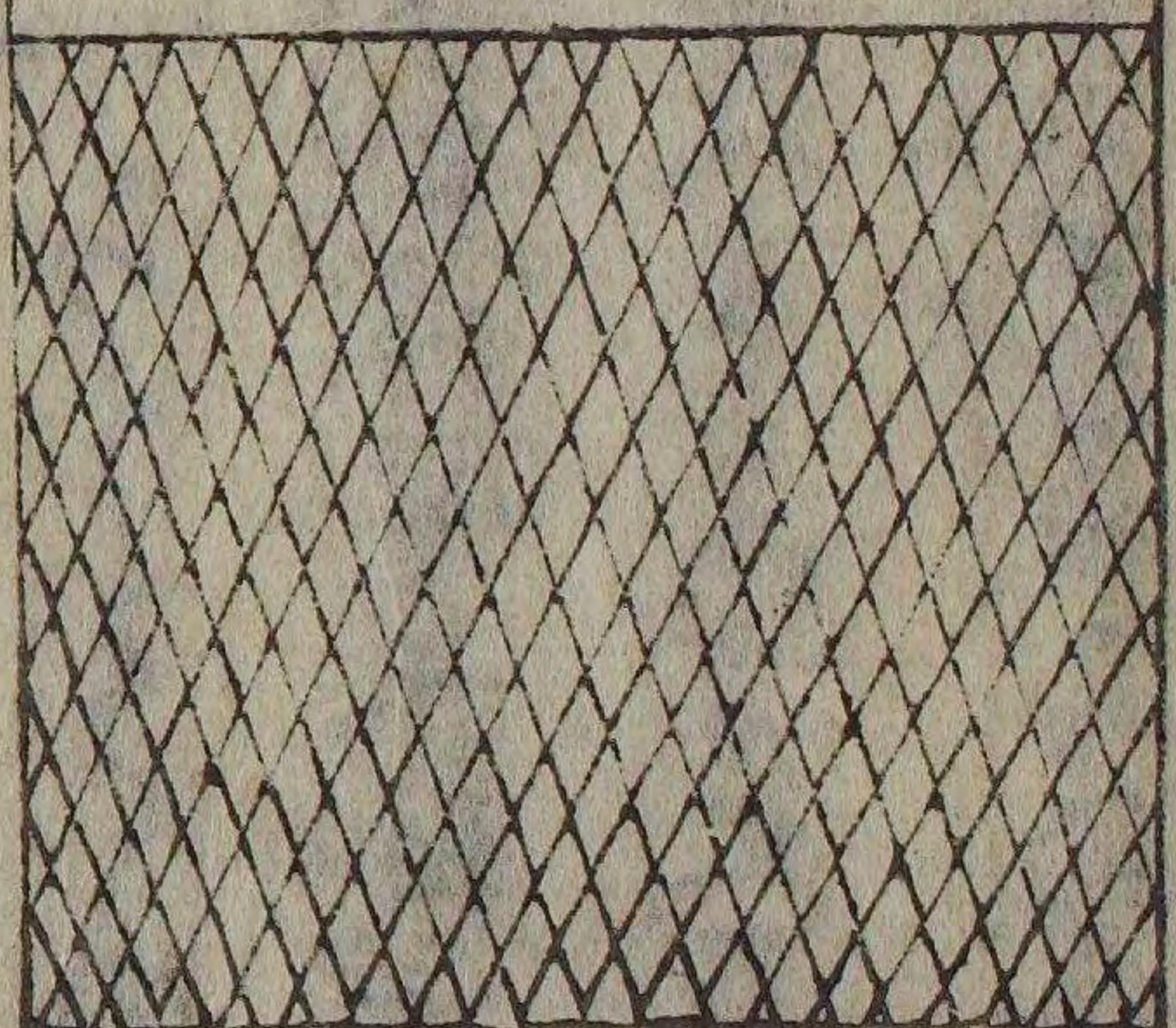
指松明八事是ひ取薪者の方又薪付すも下 楠木御

せ也一あうき八分もとニ尺と六寸守たる也。但好よよくとて

足とよ化ハ我太刀つて薪廢也の事

つるまつたち
あき

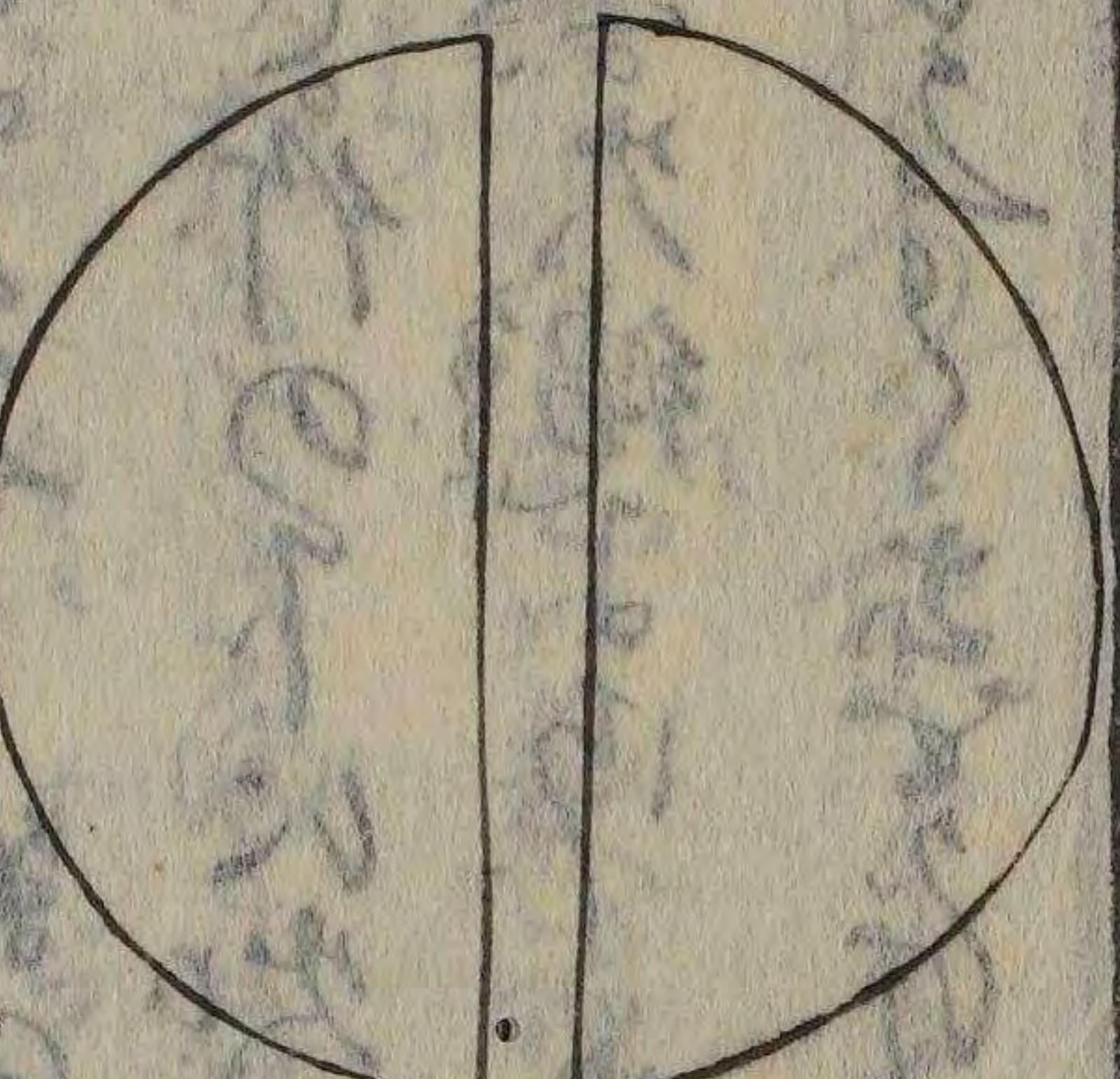
指板



よりの馬上アガリ
籠入ればよし
小籠よりの馬上に
乗らそもし

○投火矢のより先に軍行の時。敵れめうりとて更にあがみ
敵とさりとす也

馬上

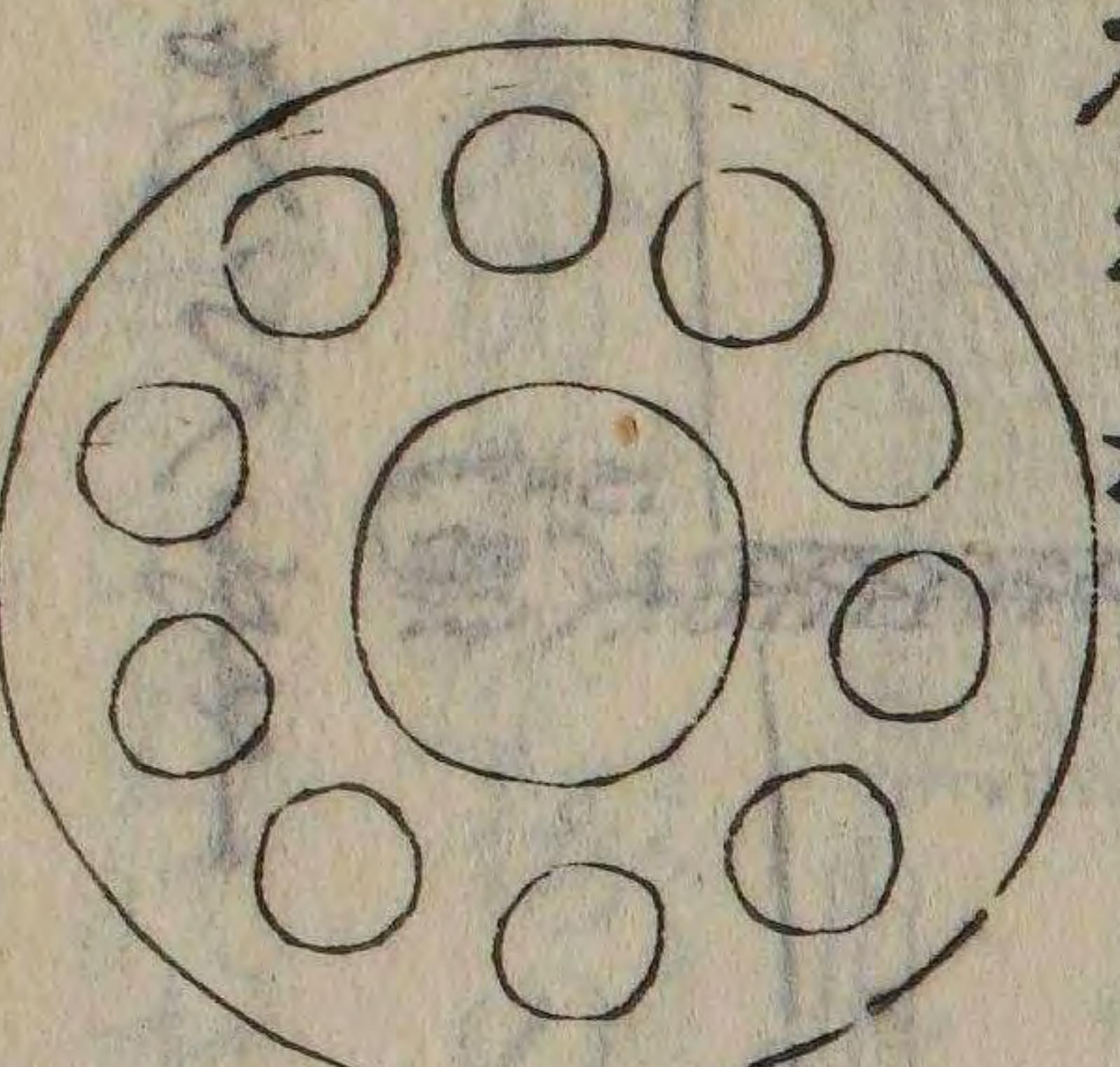


馬上

右の馬からうけのよりあつてうすを中へ、火薬のつまら
火薬小吹きとぞつて下じて、敵めうりとて、投火也
之の退路をうす、附めうりとて、火薬

○投火矢とす

火薬をぬるよ



右より火穴よへ、巣穴と入。中の火かより口業と通ひて、こ

はよ葉をこもれど紙まくらのあづまりふとさけ入る

。うみ火之幸

五
是より口葉とゆふ

箱

一元うち中へ口葉と通へ
衣大きべぬよまく第一のねはすきりとめぐる下に行を
ヨリやせと竹の下に火縄と烈也。おの中少い。火炮の葉よ小石
と風でよく。火縄よ。火の矢の道とて葉のよばむともと
かけまくよすくおきて敵のますを方よす。敵も上

とあじ時火矢よすくには傳

。火矢と云ひ見る。火炮の時馬よ。火炮よけ敵の中へまひし
也。火矢は縄ねこまく。よはてよ。ありハ敵よすく。小荷物
なまくねぬ。小縄一筋よしてしつじ。荷縄よつても。早くりえ
ゑくする。だくせ

。まく。火矢よつてやう。世小ねよとゆりよ

。火矢よ。縄。そぞり。もあともう竹の
筒のよそが。引そ縄よ。もく。口葉の
ハナ。よそ

右矢の把ハ縄のほうへかくねよとよし

。口葉。うみ葉の火れ事

多くせうをいこす。こえ。火矢。二。相の原。火矢

右まことにまよひをもつてをたけの時敵の中へ殺入らせ
故ありと

第十七

そり番に幸存り 番焼折事

そり番の時ひある物あがふあまよひ付敵代兵はる
のひそらづきじこひをひとそりにめも十人あく番る
うなこへまぐりかよ出る。あいすゑふとうじめ。むろとや合御
くわ。かうの隊も云合もだす。すきをちる時ばかりの
物しきる事だよ宣うるさきのせひぬ。すま不対の番るとも
時ときだめを替りす。猿痴す。どめで、ばたはえ條へんちも外
てか部とえまひきよ番の半海の事あふわくます。ども
西風よ焼毛と、又亥み毛と並びすりの也



音味方の方よ少しひのをひす
こそせただりに。三あよ葉へ燒意
ゆゑあせた小角は、房弓絆の備書

小毛

右つるひ日暮うちだるを一氣に火付と蒙薦をもと燒え
（風の）や、ゆくのと負へ一毛ひすとかつとの儀や燒折の番を
風の裏に吹まなりよもよもやして薪をつと風下よりやを
つき下へ別ひつとひすくもくと燒がく。ひも毛をひく

一陣のよき城の毛がす。そて火付と番の物をすま
（だん）

第十八

かきの事付と番の物をすま

あとまへはまづよひを下す。十人あらに二三りて。か
かよせて地をとすべ。長刀など小刀よふきこ物あり
ゆ。すゑ

第十九 拾ふまうらがの事

大事件にて、もとおもづくのが七つわれど、お字を通す也
稱ひやうとおなねそつくり敵方へまへざります。こゑうち
入らねまじは黒木の拾ふまうとおもくちより同心なり
や。實の爲めに二三とくもおれます。おもくちより同心なり
や。三とお半生年未時へ定と六二と急よげん也。

第二十 鹰の飛行のひのへに方とぞ事

未うらがのひだをいたよりおとづるのをぬまへ。飛走のひ

也けりとつよりのち、よ十手^テ十三支よりしてくと云海流を
鳴相^{きみ}くぬよ日取事よ累^{タシ}て。し事よおもすりの也

子午酉寅日ハ、壬申巳未日ハ、壬辰巳未日ハ、未未日ハ
丑未辰戌卯申日ハ、壬午巳未日ハ、未未日ハ、未未日ハ

右ハ十二支と方よ當て知べ

甲子日ハ戌時入

丙寅日ハ

寅子戌亥時入

戊辛日ハ子戌時入

己亥日ハ

亥子戌亥時入

右十天とお入付とお通又あるときて、お道よへ小砂とよさば
らしきをあせて入つろとおとすより。法也今化をせ

るをきく。十一歳過すと、未未がまく物見のゆめれ焉也


第二十一

竊盜敵と知ゆる之幸

一竊盜物見ゆといひ敵の犯法とす。推量す。事あれば
あれども利不立事とて酒をすくは。又大將物を軍者と
いふ事有り。かくとて敵とす。よりて大軍の物へたゞく敵に鳴
物よん。うつり人より。彼よんと付て知る。に傳る。この如き敵は主
玉く。まく。自ら。かくとめらる。成人の如く。お法城
へなづく已。うん。アモ。ヒ。シ。モ。ア。ル。

第二十二 内通と半付リ矣。又の事

一内通へきのびれ役也。文もとの義なり。ても人の心をうるさ
す。と。首も。脛相袖も。との計。よても。そつと。さり。まんの
もの。何と。とく。心を付さ。く。ひ。微。す。分。ふ。の。技。だ。じ。え。財。と
い。な。す。竊盜も。入。す。な。き。と。く。し。や。り。又。矣。み。ハ。文。部。す。よ。ん
せ。付。一。敵。よ。り。あ。う。矣。又。よ。ま。の。像。と。書。く。と。立。矣
矣。と。と。陳。知。半。肝。刺。也。た。と。の。奥。の。脇。よ。文。と。こ。め。て。ら。と。と。
げ。又。老。人の。股。と。割。て。似。ぬ。と。入。て。敵。と。う。ち。う。う。ため。あ。



The « Gunpô Jiyôshû » is a japanese collection from 1664, gathering various warrior traditions of the time, in 12 books.

You will find here all of the complete 12 books.

Here is the 12 books index :

Book 1 : Questions and answers about bravery.

Book 2 : About preparation to battles. (First part)

Book 3 : About preparation to battles. (Second part)

Book 4 : About preparation to battles. (Third part)

Book 5 : About the weapons and the tools.

Book 6 : About shinobi / ninja. (First part)

Book 7 : About shinobi / ninja. (Second part)

Book 8 : About shinobi / ninja. (Third part)

Book 9 : About lucky and unlucky day, time and direction. (First part)

Book 10 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Second part)

Book 11 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Third part)

Book 12 : About *ki* (*chi* or *qi*).

For information, these 12 books of the « Gunpô Jiyôshû » have been fully published and translated in modern japanese in a single book, during the year 2001, by the japanese publisher Perikansha :

[https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB
%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D
%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE
%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F
%B2/dp/483150971X](https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X)

Auteur : Ogasawara Sakuun (小笠原 昨雲)
Titre en langue originale : « 軍法 侍用集 »
Titre en japonais : « Gunpô Jiyôshû »
Titre en français : « Recueil des techniques guerrières des samouraïs »
Titre en anglais : « The collected way of the samurai military arts »
Année : 1664

Le « Gunpô Jiyôshû » est un recueil japonais datant de 1664, compilant diverses traditions guerrières de l'époque en 12 cahiers.
Vous trouverez ici l'intégralité de ces 12 cahiers.

En voici le sommaire :

Cahier 1 : Dialogue sur la bravoure.

Cahier 2 : Sur la préparation aux batailles. (Première partie)

Cahier 3 : Sur la préparation aux batailles. (Deuxième partie)

Cahier 4 : Sur la préparation aux batailles. (Troisième partie)

Cahier 5 : Sur les armes et les outils.

Cahier 6 : Sur les ninja. (Première partie)

Cahier 7 : Sur les ninja. (Deuxième partie)

Cahier 8 : Sur les ninja. (Troisième partie)

Cahier 9 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Première partie)

Cahier 10 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Deuxième partie)

Cahier 11 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Troisième partie)

Cahier 12 : Sur les manifestations de l'énergie vitale (le *ki*, *qi* ou *chi*)

Pour mémoire, ces 12 cahiers du « Gunpô Jiyôshû » ont été intégralement retranscrits et publiés en japonais moderne en un seul livre, en 2001, par les éditions japonaises Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>